

心理士について

心理士とは・・・

話を聞いたり行動を見たりすることで、相談者の抱えている問題やその背景を推測し、相談者の自己実現や心の健康の保持増進に向けた援助を行う、**心の専門家**です。主な資格としては、**公認心理師**や**臨床心理士**があります。以下に、心理士の一般的な業務についてご説明します。



心理アセスメント

心理検査や面接、行動観察等によって必要な情報を収集し、対人関係の悩みや日常生活の中での困りなど、相談者の抱えている問題を多面的に見立てることで。



相談者への支援

相談者の自己実現や心の健康の保持/増進に向けてカウンセリングなどの心理的支援を行うことです。



相談者の関係者への援助

心理アセスメントにもとづいて相談者の関係者(家族など)に対して相談や助言などを行うことです。



心理教育

心の健康の保持/増進のための教育や情報提供を行うことです。

心理士の活躍の場

医療 保健



患者や家族の方に対し、心理検査やカウンセリング、助言等を行います。また、デイケアでの活動や乳幼児健診での発達相談なども行います。

教育



生徒や保護者、教員に対し、面接や助言等を行います。他機関への橋渡し役を担うこともあります。

福祉



子どもから高齢者、疾患や障害のある方など、福祉に関する幅広い領域に対し、心理的な側面から援助を行います。

産業



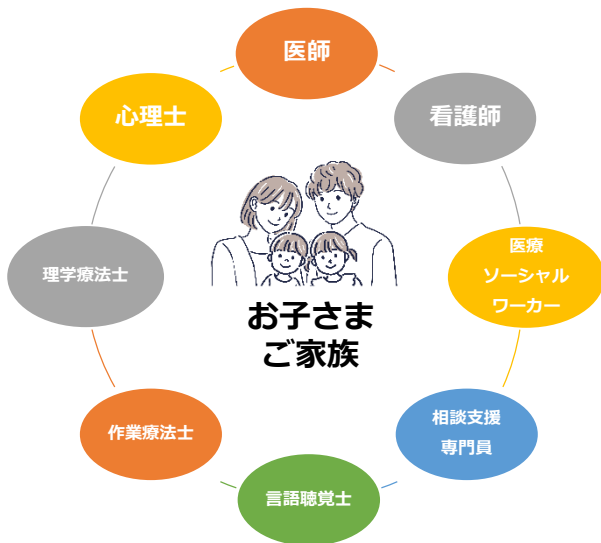
企業や従業員の方に対し、職業生活のために面接や助言等を行います。

司法



加害者や被害者の方に対し、心理的な側面に関する調査や矯正・ケアのための面接等を行います。

当院の心理士の特徴



当院は、発達障害やてんかん、脳性麻痺などの小児神経領域の診察にも力を入れており、特に発達障害においては倉敷市の拠点病院としての役割も担っています。

多職種によるチームでお子さまやご家族を支援していますが、その中で心理士は、心理検査やカウンセリングを行なっています。

心理検査の流れ

心理検査や聞き取りでの情報は、診断や援助方針決定の補助となります。



医師の指示 → 心理検査・聞き取り → 医師の診察



心理検査では、お子さまの年齢や状態に応じて、主に発達検査や知能検査を実施しています(新版K式発達検査2020,田中ビネー-V知能検査,WISC-IV,WPPSI-Ⅲなど)。



聞き取りでは診断のためだけでなく、家庭や学校といった、日常生活の場での関わりに繋がるよう、ご家族から聞き取った情報も活用しています。

カウンセリングの流れ

医師の指示 → カウンセリング (月1,2回) → 医師の診察 (1回/3カ月～半年)



お子さまとの面接の中では、遊びや制作、会話を通して、日常生活の中での困りやお子さまの気持ちを整理し、解決方法などを一緒に考えていきます。ご家族との面接においては、現状を把握し、お子さまへの理解を一緒に深めたり、子育てに対する相談を行なっています。